



福島県立梁川高等学校

令和元年6月13日

校長だより

知性 誠実 責任

第 23 号

## ■ 高校生の頃にしてほしかった「キャリア教育」とは

梁川高校の学校経営・運営ビジョンの「進路希望の実現」の欄には、「キャリア教育」という言葉があります。この言葉が初めて出てきたのは平成11年です。その後学校現場で使われ始め、今では普通に使われています。その一方で、一般にはまだまだ浸透していない、わかりにくい言葉の一つだと思います。

### ◆ キャリア教育の定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

### ◆ キャリアとは

人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。また、このような役割の中には、所属する集団や組織から与えられたものや日常生活の中で特に意識せず習慣的に行っているものもあるが、人はこれらを含めた様々な役割の関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を重ねながら取り組んでいる。

人は、このような自分の役割を果たして活動すること、つまり「働くこと」を通して、人や社会にかかわることになり、そのかかわり方の違いが「自分らしい生き方」となっていくものである。

このように、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分との役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。

用語の説明としては、上記のようになりますが、決してわかりやすいとは言えません。そこで、具体的に考えるために、「高校生の頃にしてほしかったキャリア教育」について考えてみます。卒業後に振り返って思うキャリア教育の意義について考えてみるということです。

学校において、教員がキャリア教育に日々取り組む中で、生徒が意義を感じているか悩むことがあります。そのようなときは、キャリア教育の意義は、すぐに実感されるものもあれば、後になって感じられるものもある、ということを確認するようにします。教育の効果は、すぐに表れるものもありますが、その多くは、生徒が卒業してから、じわじわと出てくるものではないでしょうか。

### ● すぐに役立つと感じられる学習内容

高校生のときに「役に立った」と感じ、卒業後に振り返ると「もっと指導してほしかった」と思う学習内容

- ☛ 自分の個性や適性（向き・不向き）を考える学習
- ☛ 進学にかかる費用や奨学金についての情報
- ☛ 社会全体のグローバル化（国際化）の動向についての学習 など



これらは、高校生のときにも、そして卒業後に振り返ってみても、意義を感じられた項目です。キャリア教育の内容として重要視できるものです。

### ● 時間がたってから役立つと感じられる学習内容

高校生のときには「役に立たない」と感じたが、卒業後に振り返ると「もっと指導してほしかった」と思う学習内容

- ☛ 社会人・職業人としての常識やマナーについての学習



「社会人・職業人としての常識やマナー」は、卒業後に必要性が感じられています。高校生の頃には意義を感じにくいからこそ、学ばせ方に工夫が必要です。例えば、教職員の振る舞いも生徒にとっては学びの対象となります。インターンシップに向けて、教職員が事業所の方とやりとりしている様子を見せるのもいいかもしれません。

### ● 高校生のときに取り組んでおきたかった学習内容

高校生のときには「取り組んでいない（指導がなかった）」が、卒業後に振り返って「もっと指導してほしかった」と思う学習内容

- ☛ 就職後の離職・失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応についての学習
- ☛ 転職希望者や再就職希望者などへの就職支援の仕組みについての学習 など

これらは、卒業後に、高校生の頃にあったらよかったと思う学習内容です。これらの内容についてのニーズは潜在的に高いと言えます。

変化が激しい社会においては、長期的なキャリア展望を持ちづらく、様々なリスクに直面することが予想されます。高校生や保護者も「将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応についての学習」を望んでいます。将来直面する諸リスクに対して、生徒が学校で学んでいる間にいかに備えができるかは重要な課題の一つです。